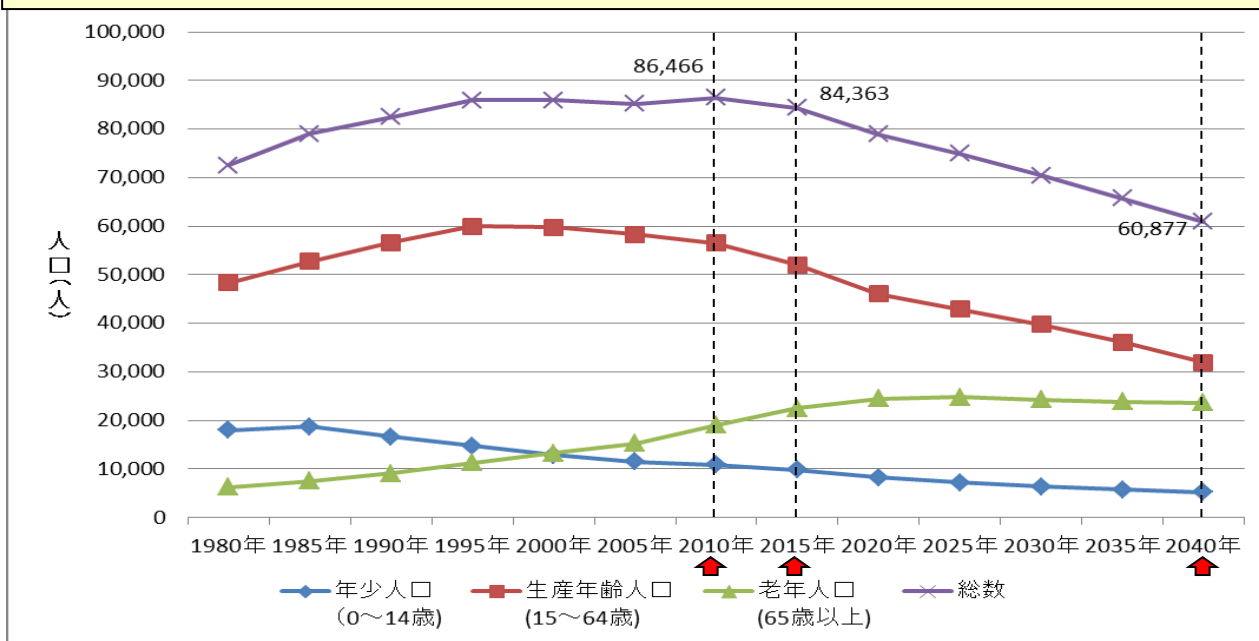


(1) 総人口と年齢3区分人口の推移

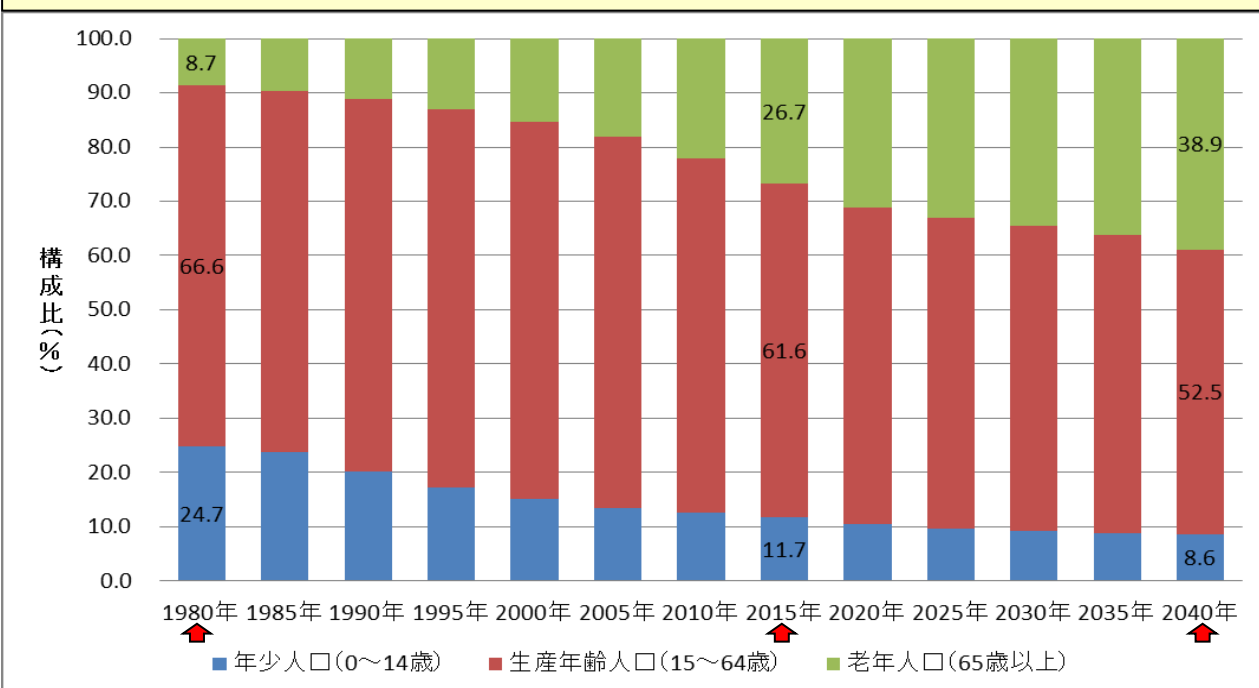
① 2010年がピークで、2015年から25年間で23,000人の減少が推計
 ⇒内訳：年少人口(△4,600人)、生産年齢人口(△20,000人)、老年人口(+1,200人)



※2020年以降は、国立社会保障・人口問題研究所で試算した推計値
 ※推計方法は、平成22年国勢調査の男女・年齢別人口を基準として、人口動態率や生存率、移動率などの仮定値を当てはめて将来人口を試算 (以下将来推計のグラフにおいて同じ)

(2) 年齢3区分比率の推移

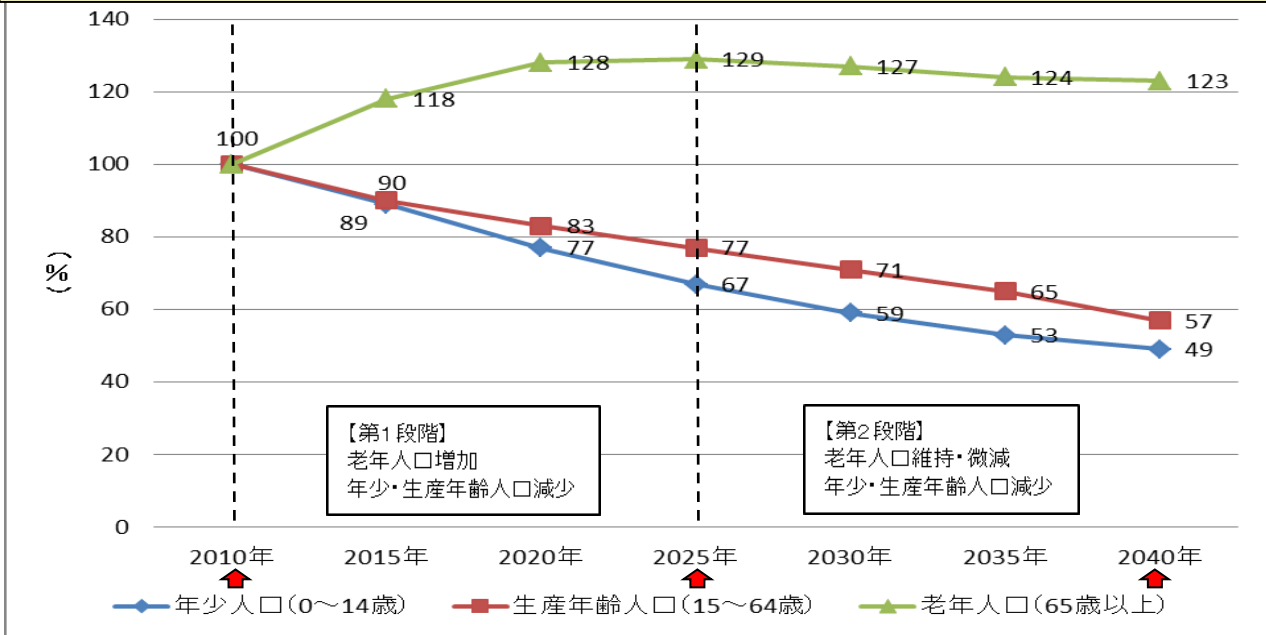
① 老年人口：1980年(9%)⇒2015年(27%)⇒2040年(39%)
 ② 年少人口：1980年(25%)⇒2015年(12%)⇒2040年(9%)



※2020年以降は、国立社会保障・人口問題研究所で試算した推計値

(3) 人口の減少段階の推移

- ① 2025年までは老年人口が増加(第1段階)、以降は老年人口が維持・縮減(第2段階)
- ② 2010年から30年後は、年少人口は半減、生産年齢人口は約6割



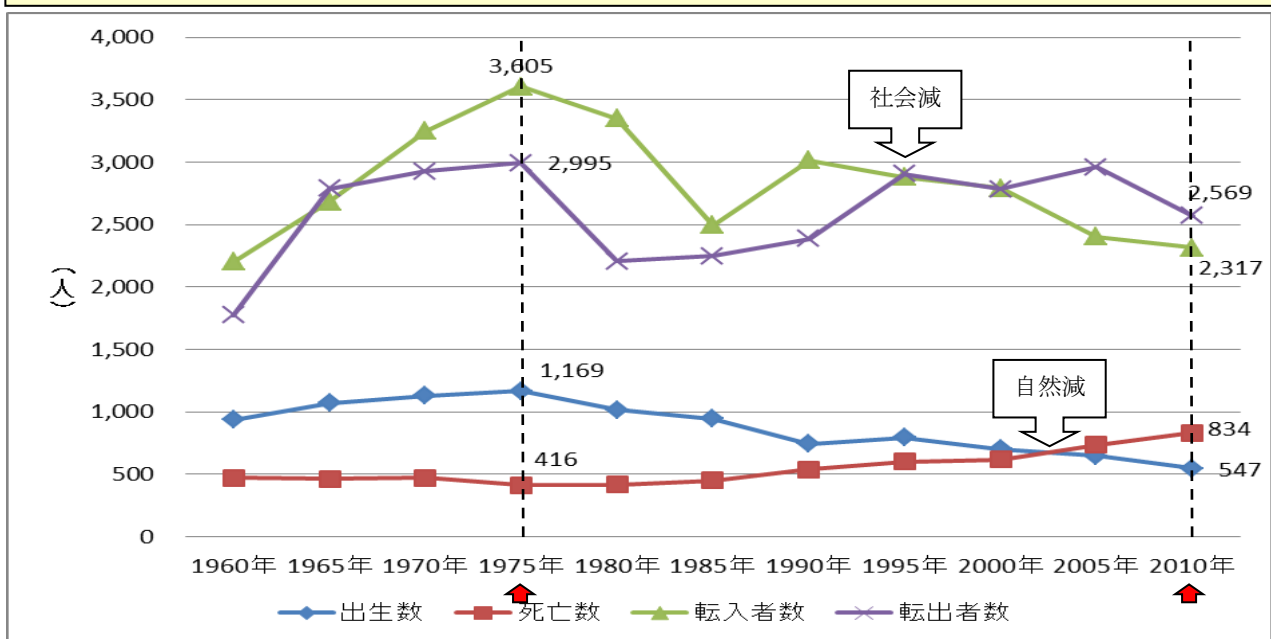
※2010年の人口を100として、各年の割合を算出

※人口の減少段階の区分

- ①第1段階：老年人口増加、年少・生産年齢人口減少
- ②第2段階：老年人口維持・縮減、年少・生産年齢人口減少
- ③第3段階：老年人口減少、年少・生産年齢人口減少

(4) 出生・死亡、転入・転出の推移

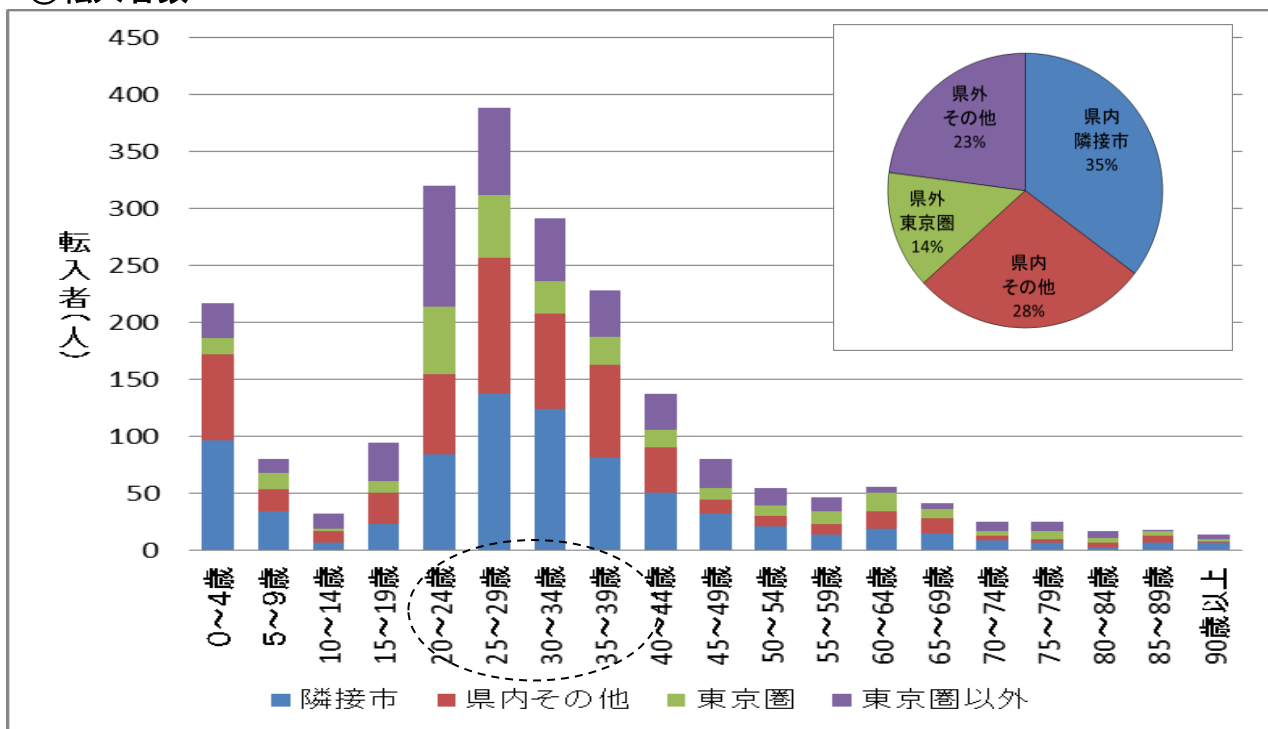
- ① 自然減(死亡者>出生者)は2003年、社会減(転出者>転入者)は1995年から発生
- ② 1975年から35年後は、出生(△53%)、死亡(+100%)、転入(△36%)、転出(△14%)



(5) 年齢階級別移動数 (H25年)

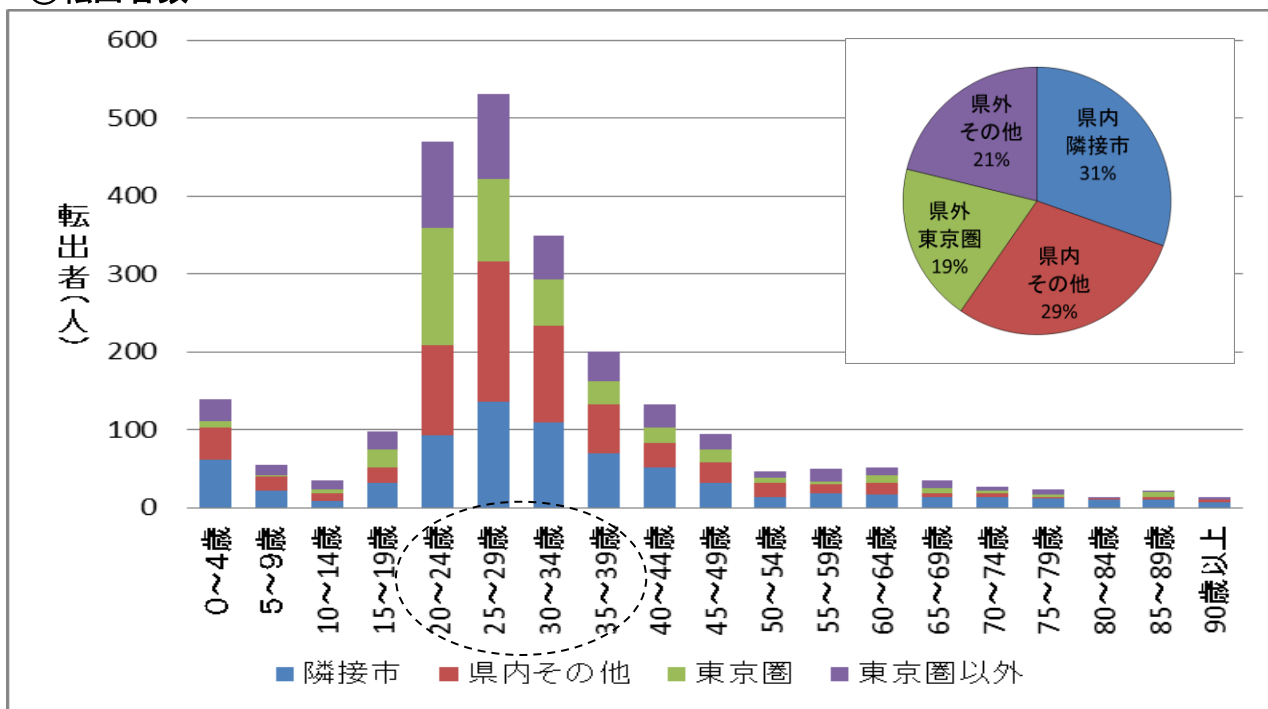
- ① 20代・30代の就職・結婚・子育て世代の移動が顕著 (転入：57%、転出：65%)
- ② 転入・転出ともに県内移動が約6割、東京圏(1都3県)内移動が約8割

① 転入者数



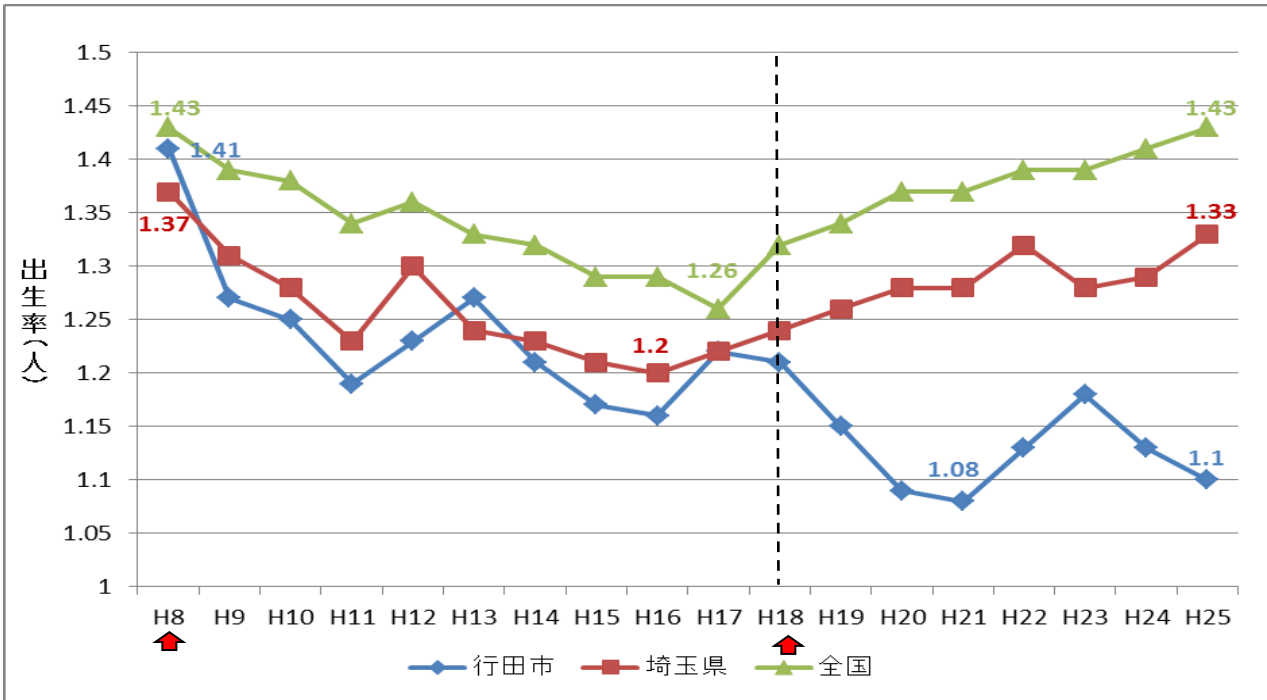
※隣接市…熊谷市・鴻巣市・羽生市・加須市
 東京圏…東京都、神奈川県・千葉県 (埼玉県除く)

② 転出者数



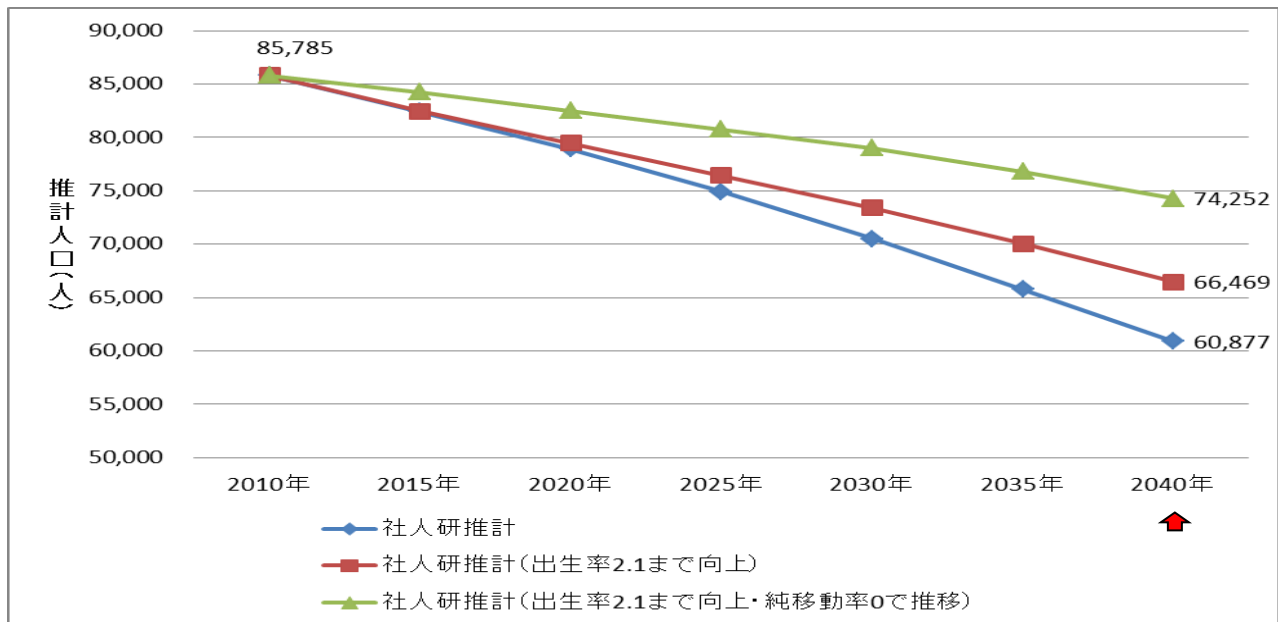
(6) 合計特殊出生率の推移

- ① H8年は、県平均よりも出生率は高く、全国平均と同水準
- ② H18以降、県・全国平均は増加傾向(H8と同水準を回復)、行田市は減少傾向



(7) 将来人口の推計

- ① 2040年の将来人口は、出生率が2.1まで向上した場合（赤グラフ）は9%の増加、さらに移動率が0になった場合（緑グラフ）は、22%の増加が推計



※青グラフ…国立社会保障・人口問題研究所の推計

赤グラフ…青グラフをベースに、出生率が2.1まで向上した場合の推計

緑グラフ…青グラフをベースに、出生率が2.1まで向上し、人口移動が均衡（転入と転出が同数で移動が0になった状態）した場合の推計

※国の長期ビジョンにおいて、2040年に出生率2.1程度の向上が達成された場合、2060年に1億人程度の人口の維持が推計